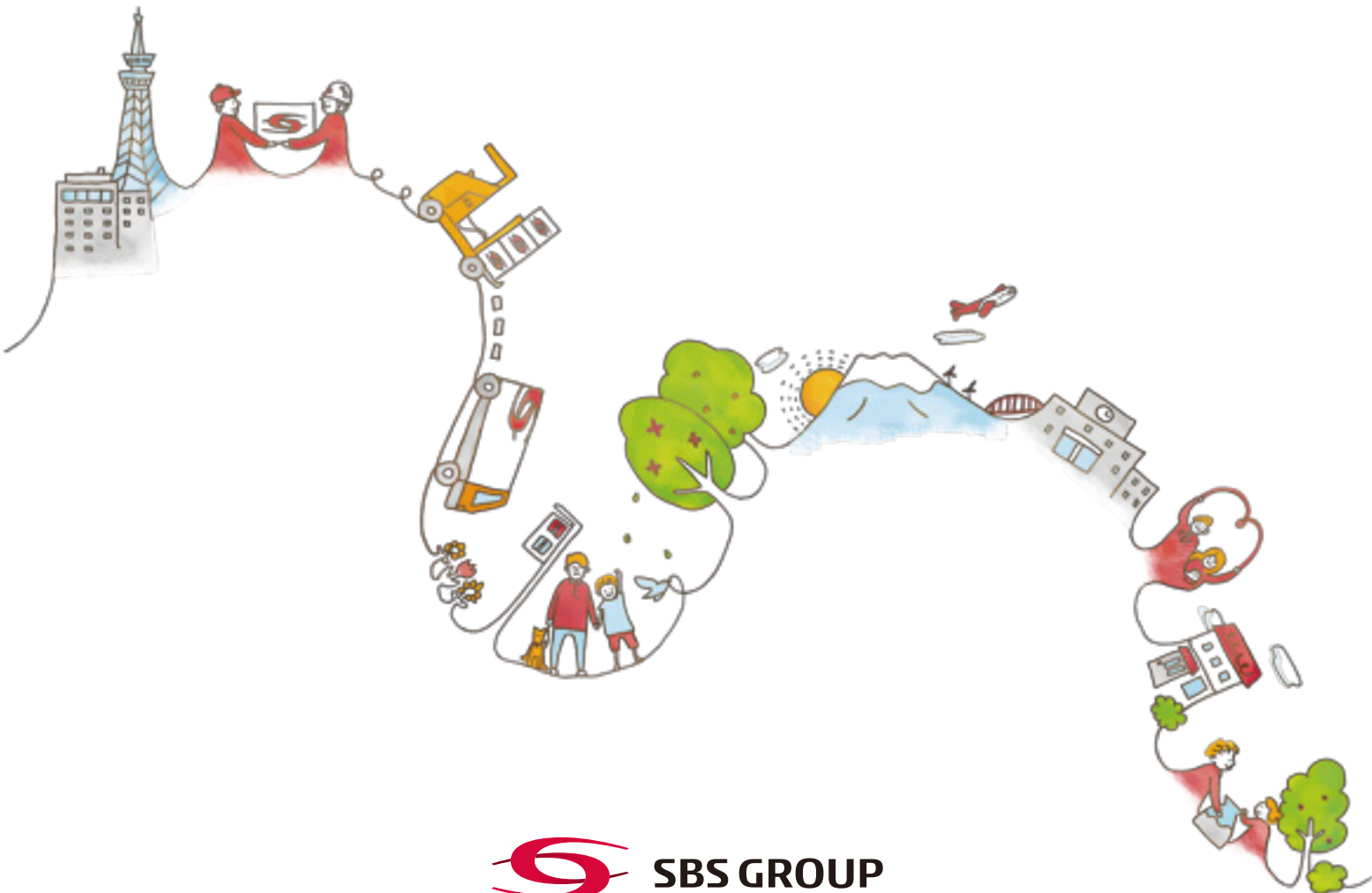


CSR REPORT 2013



われわれの提案するサービスによって、
お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、
そして社員の幸せにつながる会社を目指す。

企業の永遠の繁栄は、人を大事にすることにある。
みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。

社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。
社会と共に生き、人々に喜ばれ、
広く内外社会の発展に貢献する。





編集方針

本報告書は、株主、お客様、従業員、取引先などの各ステークホルダーの皆様に、安全や環境などへのSBSグループの姿勢と取り組みについて、より理解を深めていただくために作成しました。わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭にご報告いたします。

- **対象組織**
SBSホールディングスならびに、グループ各社の活動実績を対象としています。
- **対象期間**
2012年4月1日～2013年3月31日
(一部対象期間外の活動も含みます)
- **参考にしたガイドライン**
「環境報告ガイドライン(2012年版)」(環境省)
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」(Global Reporting Initiative)
- **その他の情報提供手段**
本報告書は、SBSホールディングスのウェブサイトからもダウンロードできます。
(<http://www.sbs-group.co.jp/>)
- **発行年月**
2013年08月
- **次回発行**
2014年夏を予定
- **発行責任**
SBSホールディングス株式会社 IR・広報部 CSR・環境対策推進室
TEL:03-3829-2240/FAX:03-3829-2822

CONTENTS

| | |
|--------------|-----------|
| トップメッセージ | 03 |
| コーポレート・ガバナンス | 04 |
| 安全への取り組み | 07 |
| 環境への取り組み | 13 |
| 社会とのかかわり | 19 |
| SBSグループの概要 | 22 |

“社会の期待に応え、
社会の期待に背かない”
CSR経営を
着実に推進します



東日本大震災の発生から2年が経過しました。しかし、いまだ住宅、農地、インフラなどは復旧途上、原発事故は収束の目処すら立っておりません。被災された方々や原発事故で避難されている皆様に改めてお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

物流は、あらゆる産業にかかわりを持ち経済や生活に不可欠な社会インフラです。同時に物流は、サプライチェーンの最適化を図る戦略としてその優劣がビジネスの成功を左右する時代を迎えています。物流が担う責任と役割は、ますます重く大きくなっております。

一方、社会の成熟化や情報化の進展、企業不祥事の頻発、環境問題の深刻化などを背景に企業への要望の多様化や責任範囲の拡大が見られます。私たち企業にはステークホルダーの皆様との関係を重視し、社会との共生、発展を目指すCSR経営が求められています。

当グループは、この状況をしっかりと認識し、CSR経営の徹底を図るため『SBSグループ行動憲章』を制定し、グループの役員・従業員ひとり一人が守るべき行動基準としています。全員がこれを共有、自覚し、業務の中で日々実践するよう努めております。

2012年4月～2013年3月までの主な活動は、コンプライアンスや環境対策を必須受講とした社員研修、安全にかかわるセミナーや研修会の開催強化、従業員全体で行う「半径5mの環境行動」など、CSRマインドをひとり一人に浸透させる取り組みを進めました。

環境への取り組み実績としては、2012年度のCO₂排出量是对前年で4.5%、約3千トンの排出を抑制することができました。これは、2009年度のCO₂排出量10%削減を目標とする「環境アクションプラン2013」に対して113%*1の進捗率となります。

私たちは、「CSR経営とは、社会の期待に応え、社会の期待に背かないことである」と考えます。その実現には、皆様とのコミュニケーションが不可欠です。私たちの活動へのご意見やご感想をいただくとともに、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

SBSグループ代表

鎌田正彦

*1:2013年度のCO₂排出量目標値76,500tに対する進捗

社会から信頼される グループ経営に努めます

コーポレート・ガバナンスの考え方

SBSグループは、純粋持株会社であるSBSホールディングス(株)を中心に30社を超える事業会社で構成される企業集団としてグループ経営の推進が重要であると考えます。

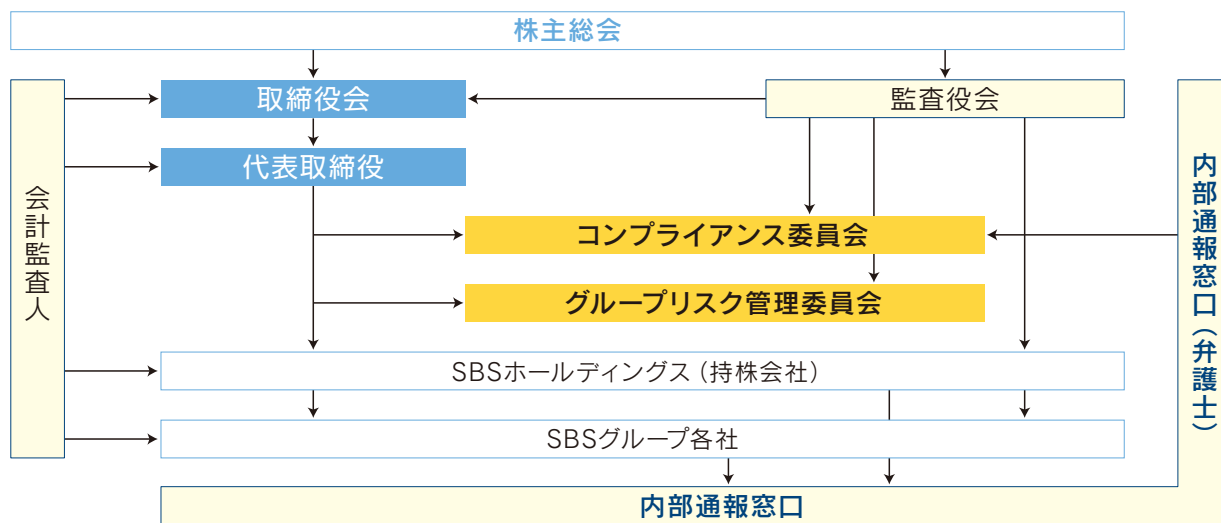
すなわち、当グループが社会から信頼を得て企業価値の継続的な向上を実現するためには、常にグループ全体の経営の効率性、健全性、透明性を確保しなければなりません。

私たちは、この実現に向けて「SBSグループ行動憲章」に則り「内部統制」「コンプライアンス」そして「リスク管理」を経営の重要な柱としてコーポレート・ガバナンス体制の構築を進めてまいります。

SBSグループ行動憲章



コーポレート・ガバナンス体制 概略図



コーポレート・ガバナンスの取り組み

01 内部統制体制の整備

財務報告の透明性と信頼性を確保

2006年5月の新会社法施行や2009年12月期からの内部統制報告書提出義務化など、近年、社会は企業の財務報告に一層の透明性・信頼性を求めています。SBSグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進等に伴う企業価値向上の好機と捉え、体制の整備を進めてまいりました。今後も、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、社会からの要請である「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努めます。

03 内部通報窓口

企業としての自浄作用の確保のために

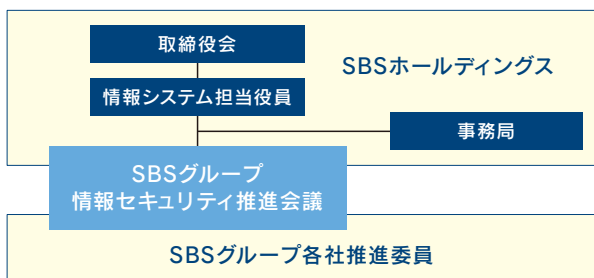
当グループでは、社員やパート・アルバイトなどの従業員を受付対象範囲とする「内部通報窓口」を設けています。この窓口は職制への相談がためられる場合に、従業員が直接相談・通報できるもので、社外の弁護士事務所などに設置しています。また、相談・通報への対応にあたっては、プライバシー保護、不利益処分の禁止など相談者の保護が保証されています。当グループは、この窓口を適正に運営していくことで、コンプライアンスに関する問題を早期に発見・解決し、企業としての自浄作用がより有効に機能するよう努めています。

05 情報セキュリティ推進会議

SBSグループの情報セキュリティの維持・向上にむけて

SBSグループは、「SBSグループ情報セキュリティ基本方針」を定め、情報セキュリティの維持・向上に取り組んでいます。基本方針で定めた事項を推進するために情報システム担当役員を議長とし、情報システム部およびグループ各社の代表により構成された「情報セキュリティ推進会議」を設置しています。当推進会議では、各社のセキュリティ対策状況を継続的にモニタリングし、その評価および改善を行っています。また、情報セキュリティの運用・対策に係る諸規程の整備とその遵守状況の評価、情報セキュリティに関する教育・啓発の推進、SBSグループリスク管理委員会へのセキュリティリスクの報告等も責務としており、SBSグループの情報セキュリティの堅持に努めています。

SBSグループ情報セキュリティ体制図



02 コンプライアンス委員会

法令違反の監視と再発防止に向けて

SBSグループは、「SBSグループ行動憲章」および「SBSグループ企業倫理規程」を制定し、法令遵守に留まらず企業倫理にまで踏み込んだコンプライアンス体制の整備とその推進に取り組んでいます。グループ代表を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、グループを挙げてコンプライアンス体制の維持・構築及び社員への啓発活動等を行っています。また、内部通報窓口などによる法令違反の監視を行っているほか、違反発生時には調査、改善の指示などを行い再発防止の徹底にも努めています。

04 グループリスク管理委員会

リスク発生の未然防止に向けて

SBSグループは、株主、お客様、地域の方々などステークホルダーの皆様の信頼を確保し、企業の社会的責任を果たすため、「SBSグループリスク管理規程」を制定し、経営活動の脅威となり得るすべての事象についてリスク管理の徹底を図っています。リスク管理システムを維持・運営するため、グループ代表を委員長とする「リスク管理委員会」を設置。グループ各社・各部門は、年間計画に基づき重点リスクを洗い出し、対策を講じます。また、その進捗状況を同委員会でチェックすることでリスクの発生の未然防止に努めています。

SBSグループ 情報セキュリティ基本方針

SBSグループは、以下に示すSBSグループ情報セキュリティ基本方針を定め、社会からの信頼を常に得るために、グループ全体で情報セキュリティに取り組みます。

- 1 情報セキュリティに関する法令、国が定める指針、その他規範を遵守します。
- 2 情報セキュリティに関する責任を明確にし、対策を実施するための体制を整備します。
- 3 情報セキュリティリスクを識別し、人的、組織的、技術的、物理的に適切な対策を実施します。
- 4 情報セキュリティに関する教育、啓発を実施し、全従業員が情報セキュリティ意識をもって業務を遂行できるようにします。
- 5 情報セキュリティに関する管理体制および取り組みについて点検を実施し、継続的に見直し・改善を行います。

階層別研修を通じたコンプライアンス教育

共通カリキュラムとして従業員への教育を推進しています

従業員、ひとり一人がコンプライアンスの重要性を理解して、日々の業務に取り組むことで、コンプライアンス経営が成り立ちます。当グループでは、キャリアに応じた階層別研修でCSR・環境対策、コンプライアンス(一般、経理・会計、労務)、情報セキュリティを共通カリキュラムとして取り入れています。コンプライアンス関係の教育を定期的に繰り返し行い、法令を重視した企業風土を醸成します。



CSR・コンプライアンス研修

1 目的

各階層別研修の中に、CSR・環境対策、コンプライアンス、情報セキュリティなどの業務教育を取り入れ、その重要性・必要性を理解・認識させ、広範囲にわたる普及・徹底を目的とする。



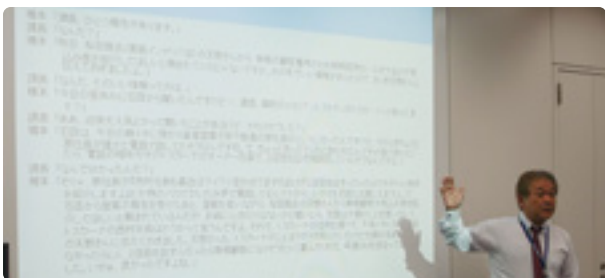
2 業務教育を行う階層別研修

| 番号 | 階層別研修 | CSR・環境対策 | コンプライアンス | | | 情報セキュリティ |
|----|------------|----------|----------|-------|----|----------|
| | | | 一般 | 経理・会計 | 労務 | |
| 1 | 新入社員研修 | ○ | ○ | ○ | — | ○ |
| 2 | 社会人3年目研修 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 中堅社員研修 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 監督職基礎研修 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 監督職アドバンス研修 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 管理職基礎研修 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 管理職アドバンス研修 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

コンプライアンス推進委員研修

正しい知識を修得して職場への浸透を図ります

SBSホールディングスではコンプライアンス経営を推進するために、グループ会社のコンプライアンス推進委員を対象とした研修を行っています。研修は外部の専門講師を招聘し、身につけなければならないコンプライアンスの基本知識やスキルの修得、また社会的な事例や想定演習等を通じて、実践的な内容を盛り込み各社、各職場への普及・浸透を進めています。



コンプライアンスの徹底

従業員への浸透を図ります

コンプライアンスに対して正しい知識を持ち、遵守すべき事項がわかるように「SBSグループ コンプライアンス・マニュアル」を作成し、全従業員に配布しました。当マニュアルは、具体的な事例やチェックリストを掲載し、現場での使いやすさを工夫しています。また、「コンプライアンス通信」を毎月発行することで、最新の情報に加え、ポイント・ポイントを繰り返し伝え、コンプライアンスの浸透を進めております。



コンプライアンスマニュアル



コンプライアンス通信

経営の最重要課題として 事故防止に取り組めます

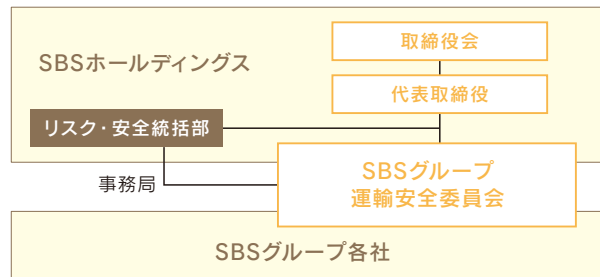
安全に対する考え方

物流事業を主力とするSBSグループは、「安全最優先の原則」を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、グループ力を結集して事故防止に取り組んでいます。グループ各社が日々行う安全管理・運行管理はもちろんのこと、グループ横断組織による教育や指導を実施し、3千人のドライバーひとり一人に対して安全意識の浸透を図っています。「輸送の安全確保」「交通事故防止」は私たちの責務であり、その継続的な実現によってのみ、お客様そして社会からの信頼を獲得できるものと考えます。

1. 運輸安全マネジメントの徹底

SBSグループ全体の安全強化を図ることを目的として、SBSホールディングスに「リスク・安全統括部」を設置しています。また、SBSグループ各社との連携や横通しを図るために、「SBSグループ運輸安全委員会」を設けて、グループ全体で協調した安全教育および事故防止に取り組んでいます。

SBSグループ運輸安全マネジメント 体制図

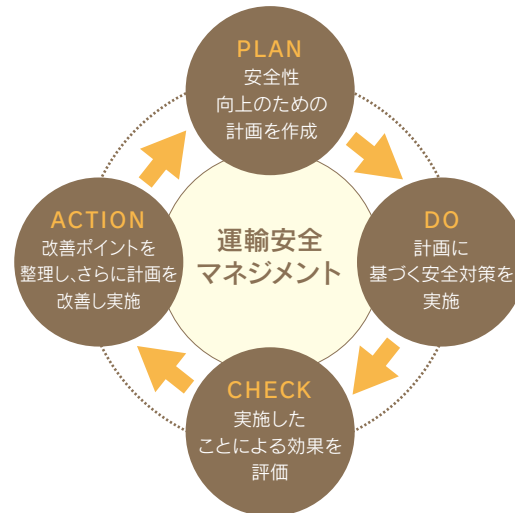


2. 社員への安全教育の徹底

社外講師の招聘、自動車メーカー様と協調した研修会の開催、社内研修会等の多角的な教育を通じて、安全意識の浸透と安全対策のための実務指導を行っています。

3. 事故防止施策の徹底

デジタルタコグラフ、ドライブレコーダーによる運転状況の把握、事例分析による事故の再発防止、運行管理のレベルアップ等、基本動作の徹底による事故防止施策を行っています。



安全への取り組み状況

| | 重点課題 | 取り組み状況 |
|-----------|--|--|
| 安全対策・事故防止 | SBSグループ 運輸安全委員会 の開催 <small>グループ各社の運輸安全管理者により開催</small> | <ul style="list-style-type: none"> ● 運輸安全マネジメント、運行管理状況の確認 ● 燃費の改善状況、Gマーク取得状況の確認 ● 運行管理者、ドライバーの教育状況の確認 |
| | 管理体制の 強化と徹底 <small>安全管理の徹底</small> <small>就労管理の徹底</small> | <ul style="list-style-type: none"> ● 運輸系事業所の巡回監査 運行管理、車両管理、労務管理、安全衛生管理 ● Gマーク(安全性優良事業所)の取得推進 82事業所で取得(2012年12月末現在) ● デジタルタコグラフによる危険運転の確認と指導 (急加速、急減速、速度超過他) ● ドライブレコーダーによる危険状況の確認 ● 点呼時、ドライバーの体調確認の徹底 ● アルコールチェッカーによる確認の徹底 ● 運転指導員による添乗指導の実施 ● 計画的な就業時間の管理 ● 計画的な休日の取得 ● 産業医面談制度 ● 睡眠時無呼吸症候群(SAS)への対応 |
| 社員教育 | 研修制度 <small>安全運転教育指導</small> <small>運行管理のレベルアップ</small> <small>労務管理・コンプライアンス</small> <small>安全・衛生管理者資格取得</small> <small>救急救命受講者の拡大</small> | <ul style="list-style-type: none"> ● エコ安全ドライブ研修(328名参加) ● 安全運転研修(73名参加) ● リスク・安全セミナーの開催(350名参加) ● コンプライアンス研修(93名参加) ● メンタルヘルス研修(51名参加) ● 階層別研修のコンプライアンス講座(240名参加) ● 資格取得のための研修支援 ● 公共教育機関による研修への参加 |

* ()内は当年度の参加人数



SBSグループの安全管理教育

SBSグループ

SBSフレック

安全運転研修会の開催

事故防止のための基礎教育を行います

SBSグループは軽量品の個別配送から重量品輸送、常温・チルド・冷凍の3温度帯輸送など、幅広い物流業務を24時間365日体制で担っています。お客様から託された大切な商品を安全・確実にお届けするため、グループ全社を対象にした安全運転研修に取り組んでいます。ドライバーの運転適性診断、交通法規等の必要知識、車両の始業前点検、運転感覚、車両操作技術など、安全運行および事故防止に不可欠となるカリキュラムにより、プロドライバーとして必要な知識および基本技量の修得を目指します。



運行に関する知識の確認

研修内容

| | |
|-----|--|
| 座学 | 1. 事故データ分析 2. 危険予知トレーニング |
| 検査 | 運転適性診断 |
| 実技1 | 始業前点検 |
| 実技2 | 車両感覚の確認 1. 左右ミラーの距離感 2. トラックの死角 3. 内輪差・外輪差 4. 巻き込み防止 5. 速度の目視感 |
| 実技3 | 車両操作の確認 1. 急制動・ABS機能 2. 施回操作 3. バック走行 4. 陰路走行 5. スラローム走行 6. 所定位置停止 |

運転適性診断



長所・短所を知り安全運転に生かします

危険予知トレーニング



当グループの研修風景が登場するNASVAの教材を活用

ミラーによる距離感と実際の違いを体感



左右ミラーの距離感を確認

内輪差・外輪差



内輪差を実測して確認

巻き込み防止



実車を使用して巻き込みの危険を体験

トラックの死角を体感



ミラーの限界視界を確認

車両操作訓練



指定位置への停止

車両操作訓練



急制動・ABS機能体験

車両操作訓練



正確な操作能力が必要な施回操作

SBSグループ

安全意識の啓発活動

運輸安全マネジメントを支える安全教育

「安全」を経営の最重要課題とするSBSグループとして、社員への安全教育はキャリア形成に応じて計画的に推進しています。安全・無事故を基本とした運輸安全マネジメントを通じて、物流企業としての社会的な信頼にお応えしていきます。



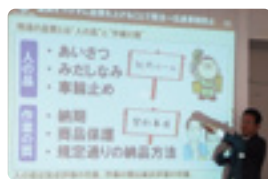
運輸安全マネジメントを支える教育体系

| 名 称 | 内 容 | 主な対象 |
|------------|-------------------|------------------|
| エコ安全ドライブ研修 | エコで安全な運転方法の修得 | ドライバー・運行管理者 |
| 安全運転研修 | 安全運転・車両操作の修得 | ドライバー |
| リスク・安全セミナー | 最新の運行管理情報の修得 | 管理・監督者、運行管理者 |
| 物流基礎研修 | 物流全般・物流改善知識の修得 | 入社3年目クラスの社員 |
| 現場リーダー強化研修 | 現場リーダーの能力向上 | 現場リーダー(ドライバー・構内) |
| 物流センター長研修 | 物流品質・労務管理・改善手法の修得 | 現場管理者、センター長 |
| 管理・監督職物流研修 | 5S徹底による職場の活性化 | 課長・係長クラス |
| CSR・環境対策研修 | 安全・環境・社会への取り組み | 全社員 |
| コンプライアンス研修 | 労務・下請法・経理等の法的ルール | 全社員 |
| メンタルヘルス研修 | メンタルヘルス・マネジメント全般 | 管理・監督者、労務管理担当 |



リスク・安全セミナーで基本を見直します

SBSグループでは、管理者・運行管理者を主な対象としてリスク・安全セミナーを定期的に開催しています。物流業界に精通した外部講師により、運輸安全に関する最新の情報、安全を確保するポイント等を学びます。第一線の管理者・運行管理者が繰り返し基本に立ち戻り、運行管理に必要な知識を吸収し、安全管理を推進しています。



専門の講師による研修



SBSグループ 平成25年度安全スローガン

SBSグループは、今年度の安全スローガンを「まごころを 無事故で届けて 得る信頼」に決定しました。お客様の大切な商品を、無事故で安全・確実にお届けすることがプロドライバーの職務であり、物流企業の責任であることを再確認し業務に臨もうというものです。この新安全スローガンはポスターにしてグループ全事業所へ配付、全従業員への周知と安全運行の徹底を図っています。

平成25年度 SBSグループ安全スローガン

**まごころを
無事故で届けて
得る信頼**



発案者のSBSロジコム 海運支店 清水冬彦

安全運転のための基本動作

長年の習慣をチェックし矯正します

安全運転を持続するには、車両乗務に係わる基本動作が、日頃から正しく励行されていることが大切です。正しいドライビングポジションで運転しているか、車両の乗降を正しい手順で行っているかなど、プロドライバーとしての動作を再確認します。正しいドライビングポジションは、無理のない運転姿勢の維持だけでなく、緊急時の急制動を確実に行うために必要です。また、帰庫シトラックから安全に降車してはじめて一日の乗務が終了します。研修カリキュラムには、乗務に係わる基本動作を取り入れ、長年の習慣やクセなどを矯正し、基本に立ち戻る大切さを教えています。

研修で降車時に労災を招く3大事例を実演



ドアに手をかけて転落



ステップの踏み外し



飛び降りることでの負傷

正しい降車手順を実演



右手でグリップを掴む



背面からステップを踏んで降車



シートに深く、しっかり座る

正しいドライビングポジション

SBSゼンツウ事故ゼロ会議

毎月事故撲滅に向けた対策会議を行います

SBSゼンツウは、「SBSゼンツウ事故ゼロ会議」と題した定例会議を毎月、全国の事業拠点で行っております。会議は事故の撲滅に向けた意思統一を図れるように、SBSゼンツウの他、協力会社様も参加します。各現場の課題に対して、統一的に、かつ速やかに対応しています。また、定期的に全社での「合同事故ゼロ会議」を開催し、外部講師による講演など、最新の情報も取り入れ、事故撲滅に向けた知識と意識の向上を図っています。



月例の事故ゼロ会議



全社合同事故ゼロ会議

各社の 長期無事故 ドライバー

グループの安全を支えるドライバー



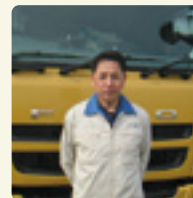
SBSゼンツウ
河合 保成 (30年)

事故を起こさないためには、日頃から自分自身の健康を維持し、運転では安全を心掛け「危険予測運転」を終始一貫しています。また、車間距離を十分に取って防衛運転を心掛けています。



SBSトランスポート
鈴木 康二郎 (25年)

「法定速度を守る」「車間距離を十分に取る」「狭い道路での右左折時は二段階停止」を心掛けています。スピードを控え、早めのブレーキを心掛ける事で、無事故を継続しています。更に日々の洗車も熱心に行い「綺麗な車両でのゆとりある運転」をしています。



SBSフレイトサービス
川村 信夫 (38年)

主に関東方面へ大型車で運行しており、高速道を使用する事が多く、無理をしないで他車の動きに十分注意して運転しています。また、青森県は1年間の内4ヶ月位は雪道走行になるので道路状況にあった、ゆとりのある運転を心掛けています。



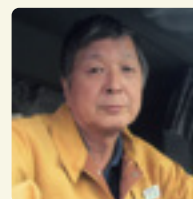
SBSフレック東北
会田 勝雄 (34年)

新人教育に携わっていることもあり、1秒1秒常に化する周囲への動向に気を付けています。また、事故は人の心と金銭面に負担を掛けるだけですので、防衛運転に徹しています。



SBSフレック北海道
佐々木 周平 (9年)

私が安全運転に心掛けているのは、十分睡眠を取り、万全な体調で乗務することです。車両の始業点検や、荷物の庫内バランスを考えた積込みを実施し、先々の安全確認を常に意識しています。



SBSロジコム
余湖 秋夫 (44年)

体調管理をしっかりとした「健康な体」と明るい職場から生まれる「健全な心」による正しい運転。そして、運転技術を過信せず基本を守り、車両を大切に思う心掛けが大事かと思っています。

SBSフレック

安全管理活動

作業マニュアルによる交通・商品・労災事故防止

チルド・フローズンを中心に全国食品物流を担うSBSフレックは、輸送品質の向上に日々努めています。輸送事故による遅延や商品破損を防止するため、流通品質管理マニュアルI（運送編）を作成しました。作業の標準化を図り、初心者からベテランまで業務ノウハウを共有することで輸送品質の向上に取り組んでいます。フォークリフトによる事故防止では、「SBSフレックのフォークリフト事故対策、FL²（エフエルツー）制度」を実施しています。これは安全を損なう行為を点数化しておき、該当行為があった場合に自己申告する制度です。申告を集計・分析し事故につながる行為の傾向や特徴を捉え、職場全員で共有することで「事故ゼロ」を目指しています。



SBSフレイトサービス

SBSトランスポート

SBSフレック九州

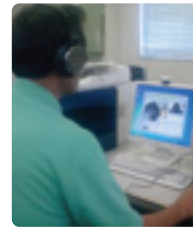
IT点呼を導入

安全管理のレベルアップと効率的な点呼を推進

SBSフレイトサービス、SBSトランスポート、SBSフレック九州の3社は、安全運行体制の充実と強化を図る目的でIT点呼を導入しています。IT点呼は、Gマーク（安全性優良事業所）の取得が条件となることで、安全対策や教育研修等の強化につながります。IT点呼の導入により、深夜・早朝の閑散時間帯の運行管理者の負担を軽減すると同時に、点呼記録をシステム管理することで、点呼の徹底・充実を図ることが可能になります。



SBSフレイトサービス



SBSトランスポート

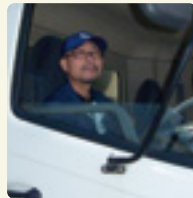


SBSフレック九州

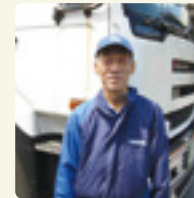
「安全最優先の原則」を第一線で支え、長期に亘って無事故を継続しています。

SBSフレック関東
富塚 雅志(15年)

焦らず平常心の運転を心掛けています。他の車の動きなど危険を感じれば近づかないようにし、車間距離や早目のブレーキ、並走運転を避けるなど防衛運転をしています。無理をしない事が大切だと思います。

SBSフレック九州
福村 嘉洋(19年)

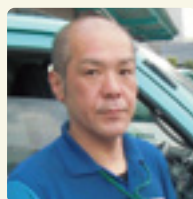
体調管理に気を付け睡眠を十分取るよう心掛け、常に心にゆとりを持つ様になっています。運転については、アクセルペダルは控えめにブレーキペダルは早めに踏むことを心掛けています。交通ルールを守り、防衛運転及び譲る事を大事にしています。

SBSフレック中部
森田 良弘(10年)

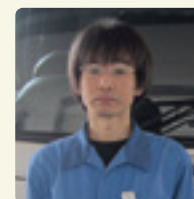
私は事故を未然に防ぐため、乗務前の運行前点検を重視し、故障・整備不良の確認を徹底して行っている他、運転中（自家用車も同様）は運転のみに集中し、運転以外の事には気を取られないよう心掛けています。

SBSロジコム
鈴木 十四夫(44年)

「人より半歩遅く、周りより1秒遅く」を常日頃、心掛けています。それによって周囲の状況がよくわかり、常に正しい判断ができると思っています。逆に早いとたった半歩でも、1秒でもその危険性は何十倍、何百倍にも拡大すると思って仕事をしています。

SBS即配
竹内 理(11年)

前後左右の動静はもとより、一時停止での安全確認は徹底しております。自分の家族を守ることと同様に周囲の人の安全を守ることが必発です。自分自身の勝手な判断、都合では決して運転いたしません。

日本レコードセンター
佐藤 卓也(14年)

自分の運転は未熟だと自分に言い聞かせ、注意を怠らぬに慎重な運転を心掛け、常に「かも知れない運転」を行っています。運転動作を行う時は、タイミングをゆったりと取り呼吸待つという、余裕の動作が事故の芽を潰していると思います。

*無事故期間について創業からの社歴が浅い会社は比較的短い期間となっております。

持続可能な循環型社会の 形成に貢献します

環境に対する考え方

環境問題がますます深刻化する中、企業活動における環境配慮は非常に重要な経営課題です。企業は経済的な価値を追求するだけでなく、環境保全に貢献していかなければなりません。私たちSBSグループは、環境保全に対する基本的な行動指針『SBSグループ環境方針』を策定し、これに則り計画を立案、実行しています。

当グループの主力事業である物流を中心に「車両」「施設」「社員」の3つの経営資源に着目して環境負荷の軽減に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献してまいります。

SBSグループ環境方針

基本理念

SBSグループは、環境問題が地球的規模を持つと共に、次世代以降においても重要な問題であるとの認識を堅持いたします。社会的責任を全うした健全な事業活動を通じ、経済と環境が両立する持続可能な循環型社会構築の一助となるよう努力いたします。

基本方針

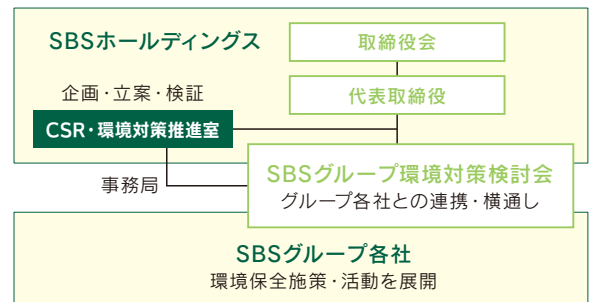
1. 資源・エネルギーの有限性を認識した上で、有効利用に努めてまいります。
2. 廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクル及び適正処理を実施いたします。
3. 国内外の環境関連法規を遵守いたします。
また、グループ各社は同意した協定等を遵守いたします。
4. 環境教育・啓発活動を通じて、全社員が本方針を周知徹底、実践いたします。
5. 直面した環境問題に対し、グループ各社の垣根なく、能動的かつ機動的に対応してまいります。

環境アクションプラン2013

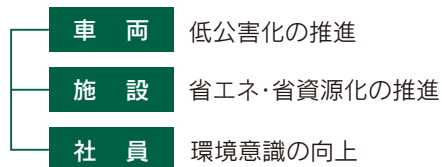
CO₂の全体排出量の削減目標
2009年度比**8,500t-CO₂**削減(10%減)

| 重点施策 | 数値目標 | CO ₂ 削減量 |
|----------------|-----------|------------------------|
| エコドライブの徹底 | 年3.6%燃費改善 | 7,700t-CO ₂ |
| CNG車の導入 | 新規に39台導入 | 400t-CO ₂ |
| 施設での使用エネルギー量削減 | 年1%以上の削減 | 400t-CO ₂ |

環境対策の推進体制



環境対策3つの柱

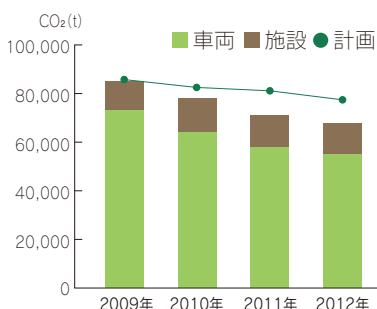


環境への取り組み状況

| 重点課題 | 取り組み状況 |
|------------------------|--|
| CO ₂ 排出量の削減 | <ul style="list-style-type: none"> ● 2012年度総排出量: 67,997t (前年度比4.5%削減) ● 車両系: 54,936t (前年度比5.1%削減) ● 施設系: 13,061t (前年度比1.7%削減) |
| 生物多様性への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ● 10%の節水と排水削減による水資源・地域環境の保護活動 ● 10%のコピー用紙削減による森林資源の保護活動 ● 10%の廃棄物抑制 ● 資源の再利用による地球資源の保護活動 ● 生物環境・周辺環境に配慮した物流施設の開発 |

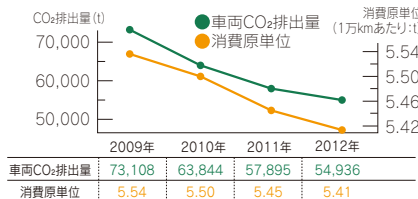
| | | |
|------------------|-----------------|--|
| 車 両 | 燃費改善 | ●エコ安全ドライブの推進 ●燃費管理の徹底と改善フォロー |
| | 低公害化 | ●環境配慮車両(低公害車)の導入 CNG車、LPG車、ハイブリッド車、ポスト新長期規制適合車 ●エコタイヤ、リトレッドタイヤの利用率9%(本数ベース) ●リヤカー付電動自転車の活用 |
| 施 設 | 省エネ化 | ●冷暖房時の温度管理の徹底 ●LED照明・省電力型照明の導入、照明の間引き ●空調制御機器、人感センサーの導入 ●トップライト(天窗)の活用 ●緑のカーテンの実施 ●エネルギー統合管理システムの導入 ●デマンド監視システムの導入 |
| | 省資源化 | ●「グリーン購入ガイドライン」による物品購入 ●廃棄物のリサイクル推進 ●ISO14001の認証取得推進 |
| 物 流 改 善 | 共同配送 モーダルシフト | ●チルド共配センターの新設 ●お取引様への共同配送提案、配送の受託 ●鉄道貨物輸送の実施(167,300t) |
| 社 員 | 環境教育 | ●エコ安全ドライブ研修:累計56回開催...880名を育成 ●CSR報告書2012を読む会:今年度12回開催...200名参加 ●ドライバー、新入社員、中堅社員向けのCSR・環境対策講座:5回開催...120名参加 |
| | 環境啓発 | ●みんなでやってみよう!「半径5mの環境行動」ポスターの掲載 ●全従業員向けCSR Newsの発行(月例) |

CO₂排出量の計画と実績推移

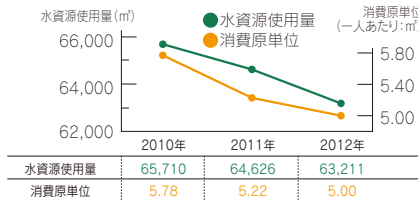


| 車 両 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 |
|-----------------------|--------|--------|--------|--------|
| 車両CO ₂ 排出量 | 73,108 | 63,844 | 57,895 | 54,936 |
| 消費原単位 | 5.54 | 5.50 | 5.45 | 5.41 |

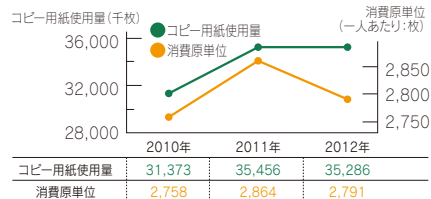
車両からのCO₂排出



水資源消費原単位管理

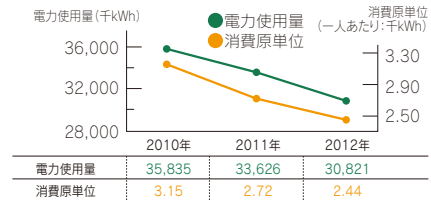


コピー用紙消費原単位管理



*2011年は通関事業の拡大により使用量が増加

電力消費原単位管理



安全・環境・品質関係の認証取得状況

SBSグループでは、Gマーク、ISO9001・14001、グリーン経営認証、エコステージなどの安全、環境や品質に関する外部認証を取得し、より効果的な環境保全活動に取り組んでいます。

| 認 証 | 社 名(取得事業所数) | 合 計 |
|----------------------------|---|-----|
| Gマーク (安全性優良事業所) | SBSロジコム(20)、SBSフレイトサービス(7)、SBSトランスポート(8) SBSフレック北海道(2)、SBSフレック東北(2)、SBSフレック関東(3) SBSフレック中部(1)、SBSフレック九州(3)、SBSゼンツウ(34)、 SBSサポートロジ(2) | 82 |
| ISO9001 (品質マネジメントシステム) | SBSロジコム(1)、SBSフレイトサービス(9)、SBSフレック(13*) SBSフレック北海道(6)、SBSフレック東北(7)、SBSフレック関東(2) SBSフレック中部(4)、SBSフレック関西(5)、SBSフレック九州(3) SBSゼンツウ(16) | 66 |
| ISO14001 (環境マネジメントシステム) | SBSロジコム(4)、SBSフレイトサービス(15)、SBSフレック(3) SBSゼンツウ(5)、SBSサポートロジ(2) | 29 |
| グリーン経営認証 | SBSロジコム(1)、SBSトランスポート(3)、SBSフレック中部(3) | 7 |
| エコステージ | SBSロジコム(1) | 1 |

*1:SBSフレック子会社との重複拠点を含めると20事業所

2012年度 SBSサポートロジ
廃棄物処理量

| 品目名称 | 全処理量(単位:t) (内グループ内) |
|----------|------------------------|
| 廃プラスチック類 | 5,401 (207) |
| 再生プラスチック | 774 (222) |
| 金属くず | 1,456 (173) |
| 木くず | 392 (38) |
| 紙類その他 | 716 (37) |
| (合計) | 8,739 (677) |

エコ・安全ドライブの実践がCO₂排出削減の決め手

通算56回開催の研修で880名のエコ安全ドライバーを育成

SBSグループは、約3,000台の車両が日々稼働し、CO₂の約8割が車両から排出されています。そのため当グループの環境対策では車両からのCO₂排出抑制を重点課題と考え、低公害車への切り替えと、エコ・安全ドライブを積極的に推進しています。2009年より自動車メーカー様のご協力のもと、実践的かつ専門性の高いカリキュラムにより、エコ・安全ドライブ研修を実施しています。研修前に測定する従来運転での燃費と、メーカー講師陣による指導後の燃費を比較すると、平均で25%の燃費改善ができています。エコ・安全ドライブは、環境対策・地球資源保護のみならず、急加速・急減速など、「急」の付く操作がなくなり、ゆとりのある運転を実践することから、安全対策においても有効な手法となります。当グループは今日まで通算で56回開催し、880名の管理者およびドライバーに対して研修を行いました。研修はグループ全社を対象とした2日間コース(安全・環境・エコドライブ実技)と、グループ

各社の事業所や拠点で行う1日コースによるエコドライブ実技研修を推進しています。車両による輸送を事業とする当グループにとって、「エコ・安全ドライブ」は、環境社会への大きな貢献につながるため、グループの重要施策として位置づけています。



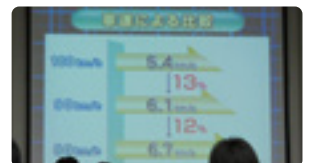
指先呼称で危険認知



数字順チェックによる反応カトレーニング



実車による始業前点検テスト



エコドライブの基本講座



メーカー講師陣からのエコドライブ説明



エコ安全ドライブの直接指導

研修内容

| 1日目 | エコ・安全ドライブリーダーとしての役割 |
|-----|--|
| | SBSグループのCSR・環境対策 健康管理と安全管理 ドライブレコーダー映像によるヒヤリハット 危険予知トレーニング(個人演習) 危険予知トレーニング(グループ討議・発表) |
| 2日目 | エコドライブ実習 |
| | 普段通りの通常走行(実車) 車両の点検整備・安全運転講習 エコドライブ手法の説明 エコドライブ走行(実車) エコドライブ結果の解説 研修レポート作成 修了者証授与(交通エコロジー・モビリティ財団認定) |

SBSロジコムによる拠点単位の1日エコドライブ研修



低公害車への切り替えを進めています

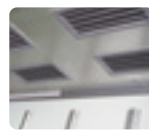
環境の負荷軽減を目指します

SBSグループでは、輸配送の条件や用途、燃料補給のインフラ等を考慮して、最適な低公害車を選定し、既存車両からの切り替えを積極的に進めています。その結果、低公害車の導入台数は1,412台となりました。燃費効率が普通車両より劣る中型冷凍車は、ハイブリッド仕様の車両を導入しCO₂の排出削減を図っています。マイナス30℃に維持する荷台部分の冷凍庫にも断熱材・蓄冷板・移動カーテン・天井冷却口・LED照明などを特別仕様で設置して省エネルギー化を実現。エコ安全ドライブによる運転と低公害車等による設備の両面から省エネルギー輸送に努め、環境負荷軽減を実践しています。

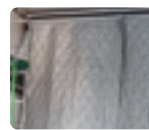
新規に導入した
ハイブリッド冷凍車 ▶



冷却効率を高めるための工夫



天井に設置した冷風口



庫内移動カーテン



キャビンとの間に断熱材を設置



効率的な冷凍板パックアップ式を採用

事業用車両における低公害車への切り替え状況

| | |
|----------|--------|
| 新長期規制適合車 | 751台 |
| ハイブリッド車 | 17台 |
| CNG車 | 84台 |
| LPG車 | 560台 |
| (低公害車計) | 1,412台 |

SBSホールディングス

SBSロジコム

エーマックス

太陽光発電の推進

再生可能エネルギーの活用でCO₂排出を抑制

SBSグループは、グループ資産の有効利用を図り、再生可能エネルギーの活用によるCO₂排出削減に寄与することを目的に太陽光発電設備を5ヶ所に設置します。野田吉春物流センターについては、2013年3月から発電を開始し、その他の4ヶ所については2013年7月から順次発電開始となります。設置する太陽光パネルは約3万枚で、発電能力は5.3メガW、年間発電量は560万kWhを見込んでいます。すべてが稼動することで年間3,600t*1のCO₂排出抑制が期待できます。

*1：代替電源として火力発電を想定

芝山太陽光発電所



千曲物流センター



川越物流センター



SBSグループ 太陽光施設概要

| 施設名 | 芝山太陽光発電所 | 野田吉春物流センター | 川越物流センター | 千曲物流センター | 西日本ロジスティクスセンター | 合計 |
|-----------------------|-------------|------------|----------|----------|----------------|-----------|
| 発電能力(kW) | 2,826 | 514 | 830 | 604 | 538 | 5,312 |
| 設置面積(m ²) | 21,693 | 3,949 | 5,580 | 4,052 | 3,949 | 39,223 |
| モジュール数(枚) | 17,664 | 3,216 | 3,400 | 2,469 | 3,216 | 29,965 |
| 発電量/年(kWh) | 3,065,419 | 557,546 | 848,260 | 599,387 | 557,978 | 5,628,590 |
| 施設所有会社 | SBSホールディングス | SBSロジコム | | エーマックス | | - |
| 稼動日 | 2013年8月 | 2013年3月 | 2013年8月 | 2013年7月 | 2014年春予定 | - |

SBSロジコム

施設エネルギー消費削減

特定事業者としての省エネ推進

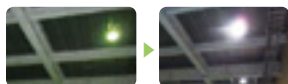
SBSロジコムは改正省エネ法の特定事業者として、計画的に省エネを推進しています。社内に「省エネルギー管理推進委員会」を設置して、エネルギー使用量の削減に関する中長期計画の策定と実施に向けた取り組みを行っております。エネルギー管理システムによりエネルギーの使用量を把握し、施設の構造や用途に応じた省エネ設備を選定し、エネルギーの消費削減を推進しました。野田物流センター、川越物流センターには、倉庫内の空調機に電力制御装置を導入し、適正な温度管理と、過剰な空調を省くことでの消費電力抑制を実現しました。また、常時照明が必要となる倉庫について、LED照明や省電力型照明に順次切り替え、省エネルギー化を推進しています。



水銀灯対応のLED照明。従来と同じ250W相当のタイプですが、消費電力は1/3に

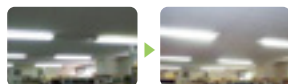
省エネ型照明への切り替え

水銀灯(倉庫内)



従来より省電力・長寿命になりました

蛍光灯(作業場)



2本1組から1本1組となり省電力を実現

SBSフレック

施設エネルギー消費削減

7つ道具でエネルギーの効率的な利用を点検

SBSフレックは食品物流に特化し、北海道から九州まで6つの地域会社と約70拠点を有する3温度帯物流の全国ネットワークを構築しております。輸配送業務は24時間365日体制で行われ、商品の安全確保を最優先にした温度や湿度の管理、安全な作業環境を維持しながら、効率的なエネルギーの利用を推進しております。SBSフレックは、食品への衛生面にも配慮した「計測7つ道具」を利用して、温度・湿度・照度・風速などの環境点検を行っています。適正な商品管理、適正な作業環境、適正なエネルギー利用の3点を実現するよう取り組んでいます。

- 温度計
- ① 温度データロガータイプ
 - ② センサー外付けタイプ
 - ③ 非接触タイプ放射温度計
 - ④ 防水型デジタル



7つ道具

- ⑤ 湿度計
- ⑥ 照度計
- ⑦ 風速計

SBS即配

SBS新砂ビルの節電活動

デマンド監視機器とLED照明で節電を達成

SBS新砂ビルではデマンド監視機器およびLED照明の導入、適正温度管理等により節電を推進しています。電気の使用状況は目視確認ができるスマートクロックを使います。スマートクロックは室内時計の周囲を電気の使用状況に応じて、青・黄・赤に変化させることで知らせます。室内時計を使うことで、従業員全体で電気の使用状況を知ることができます。電気の使用量が増えた時は、余剰電気を切るなど、タイマーに節電を行います。1年間の節電活動の結果、約13%の節電を達成し、48,575kWhの電力を抑制しました。



スマートクロック

従業員全体で電気の使用状況を知ることができます。電気の使用量が増えた時は、余剰電気を切るなど、タイマーに節電を行います。1年間の節電活動の結果、約13%の節電を達成し、48,575kWhの電力を抑制しました。

| 電力使用状況 | | 摘要 |
|--------|------------|---------------|
| 2011年度 | 377,083kWh | 2011.4~2012.3 |
| 2012年度 | 328,508kWh | 2012.4~2013.3 |
| (抑制電力) | 48,575kWh | |
| (抑制率) | 13% | |

SBSグループ

半径5mの環境行動

身近にできる5つの環境行動を実践します

SBSグループは約12,600名の従業員と3,000台の車両、300ヶ所の拠点で事業を推進しています。ひとり一人が、省エネ活動を積み重ねれば、環境社会への大きな貢献につながります。私たちは、身近で、すぐにできる5つの環境行動を策定しました。この5つの環境行動と目標値を記載したポスターを全事業所に掲示し、グループ全体で「半径5mの環境行動」を実践しています。



1 10%の節電をしよう

夏は28℃、冬は20℃ 仕事が終わったら早く帰宅

2 10%の排出抑制をしよう

3Rの実践(排出を減らす、繰り返し使う、資源として活用)

3 10%の燃費改善をしよう

全ドライバーが「エコ安全ドライブ」を実践

4 10%の水資源を節約しよう

洗車中、水を無駄に流していないか確認!

5 10%のコピー用紙を節約しよう

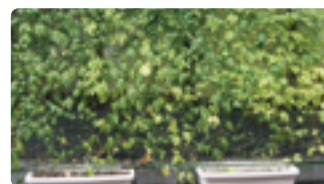
会議資料・コピー部数・両面印刷等、工夫しましょう

SBSゼンツウ

グリーン購入の推進

環境負荷の低い商品を最優先に購入しています

SBSゼンツウでは、備品や機材の購入を行う際には、社内でも定めた「グリーン購入ガイドライン」に基づいて、環境負荷の低い商品を優先する運営を行っています。購入にあたっては、購入の必要性に加え、環境に配慮して作られたものか、より長く使えるものか、廃棄する際の環境負担等を考えます。2012年度は全購入物品の6割以上をグリーン購入により調達を行いました。また当グリーン購入の他に、緑のカーテンを利用した日射の遮蔽、LED照明による省電力化など施設の省エネに対しても積極的に取り組んでいます。



SBSゼンツウ本社の緑のカーテン



グリーン購入物品

SBSフレック

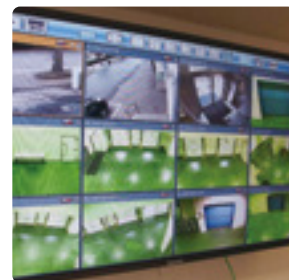
物流改善

食品共同配送センターの開設

SBSフレックは所沢に全国対応可能なチルド共同配送センターを開設し、物流インフラを持たないチルド食品や飲料メーカー様、小口多頻度配送が急増している企業様に向けた共同配送サービスを開始しました。また、庫内全室にモニターを備え、品質管理を徹底し、食品物流施設として安心してご利用いただける施設となっています。自社開発のWMS、トレーサビリティシステムなどを組み合わせ、受発注代行から全国配送まで、食の安心・安全を追求し、環境負荷軽減に配慮した食品総合物流サービスを提供しています。



所沢の共同配送センター



庫内モニターシステム

SBSグループ

SBSサポートロジ

環境社会に向けた社員教育を推進

新入社員に環境保護・資源循環の基本を教えます

SBSグループでは毎年、新入社員に対して環境社会に適合していくための研修を実施しています。研修は当グループで産業廃棄物の収集運搬および中間処理を事業とするSBSサポートロジの横浜工場で行います。物流事業者として必要な廃棄物処理の知識を修得するための講座の受講、工場実習、最後に修得度テストで終了します。未来を担う物流人材として、常に環境を意識し、廃棄物に対する適正な取り扱いを理解し、省エネルギー社会への対応ができる社員を育成します。

環境・資源リサイクルの講義



プラスチック原料の搬出



再資源化の推進



金属リサイクル



発泡スチロールリサイクル



エスカレーターベルトリサイクル



パソコン内の希少資源をリサイクル(実習)



情報・環境保護のための処理工程



ハードディスクの破壊工程



フロンガスの回収工程

理解度テスト



SBSサポートロジ

静脈物流で循環型社会の形成に貢献しています

地球資源の保護、環境負荷軽減が社会的使命です

SBSサポートロジは、廃棄物やゴミの収集・運搬を専門とした静脈物流事業を行っています。また、自社で中間処理工場を持ち、廃棄物を分別、解体、破碎、圧縮などの処理を行い、再び素材や原料に戻す、言わば、再生資源製造業も営んでいます。特徴は、素材として再利用できないものは工業原料やエネルギーとして活用するなど徹底したリサイクルを行うことで、埋め立てなどの最終処分を極力行わないゼロ・エミッション実現に取り組み、資源保護、環境保護に貢献しています。

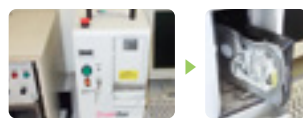
※ゼロ・エミッションとは、廃棄物をリサイクルすることで最終的に埋立処分となる廃棄物を排出しないこと



OAリサイクルセンターの概要 (情報保護体制)



磁気照射による電磁データの破壊



クラッシャー装置によるHDDの物理的破壊



東雲事業所

横浜事業所

| | 東雲事業所 | 横浜事業所 |
|------|---|--|
| 許可番号 | 東京都1320014605 | 横浜市5620014605 |
| 所在地 | 江東区東雲2-10-31 | 横浜市金沢区幸浦2-2-5 |
| 処理方法 | 破碎(4.5t/日) 圧縮(117t/日) | 破碎(107t/日) 圧縮(140t/日) 溶融(1t/日) |
| 処理対象 | 廃プラスチック、紙くず 金属くず、ガラスくず コンクリートくず、陶磁器くず | 廃プラスチック、紙くず、木くず 繊維くず、金属くず ガラスくず、コンクリートくず 陶磁器くず、かたき類 |
| 保有設備 | 50tトラックスケール | 40tトラックスケール、 フロンガス回収装置、 磁気記録媒体破壊装置 |
| 認定資格 | ISO14001 MS ASR JAB | プライバシーマーク P |

許可名称
 一般貨物自動車運送事業許可
 産業廃棄物処分業許可
 一般廃棄物収集運搬業許可
 産業廃棄物収集運搬業許可
 第一種フロン類回収業登録
 解体工事業登録
 古物商許可

許可団体
 東京都、神奈川
 東京都、横浜市
 都内各区
 首都圏および中部圏各自治体・政令市等
 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
 神奈川県
 東京都、神奈川県

静脈物流事業の詳細な情報は、SBSサポートロジのウェブサイトからご覧いただけます。→ <http://www.sbs-supportlogi.co.jp/>

社会との より良い調和を図ります

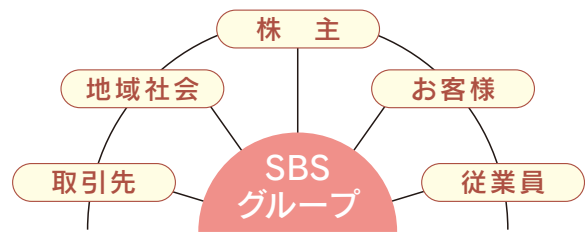
社会に対する考え方

SBSグループは、持続可能な発展のために、株主をはじめ、お客様、従業員、取引先、地域社会などのステークホルダーの皆様と健全な関係の維持・発展に努めています。たとえば、均等な雇用機会の提供、従業員が悩みを相談できる窓口の設置、災害時の支援活動、地域でのボランティア活動、住民との交流、お客様の期待に応える高品質なサービスの提供……。SBSグループは、社会を構成する一員として、ステークホルダーの皆様との相互理解の促進や貢献活動に努め、社会とのより良い調和を図ってまいります。

1. お客様とともに

私たちの大切なお客様は、安定した物流品質を求めています。ISO9001品質マネジメントシステムの取得、環境面においてお客様への貢献を目指すためにISO14001環境マネジメントシステムの取得、さらに環境対策車両の導入を推進しております。今後とも、お客様へ高い品質の物流を提供し信頼に応えてまいります。

SBSグループと社会とのかかわり



2. 従業員とともに

「従業員の育成」および「従業員の自己実現」を支援するためにキャリアプランに応じた「教育研修制度」、安全に配慮した「職場環境の整備」、安心して働くための「労務管理制度」を推進し、従業員が意欲的に働ける環境の構築を進めております。

3. 社会貢献

私たちの事業は広く社会との協調の中で営まれております。東日本大震災への支援、環境政策への対応、障がい者雇用等、地域社会のみならず社会全体への貢献と発展に寄与すべき活動を推進してまいります。

社会とのかかわり状況

| | 重点課題 | 取り組み状況 |
|------|--|---|
| お客様 | 品質向上の 取り組み強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● ISO9001、ISO14001、安全性優良事業所等の認証取得 ● 現場での改善活動の実践 |
| 従業員 | 健康管理の充実 スキルアップ・自己実現 就業環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● グループ統一研修の推進 ● 免許・資格取得の推進 ● 産業医による健康相談 ● メンタルヘルスケア体制 ● 災害時の安全対策・訓練 ● 緊急時の安全対策・訓練 |
| 社会貢献 | 障がい者への支援 地域貢献活動 エコキャップ運動 動物愛護活動 | <ul style="list-style-type: none"> ● 雇用の実施 ● 近隣清掃活動 ● 交通混雑時の横断歩道誘導 ● 富士山世界遺産登録への協賛 ● グループ全社での回収活動 ● 日本盲導犬協会への寄付金収集 ● 日本動物福祉協会への使用済切手収集 |

SBS即配

SBSフレイトサービス

盲導犬育成への協力

SBS新砂ビル従業員による寄付金活動

SBS新砂ビルでは一人の女性社員の提案によって、3年前から日本盲導犬協会への寄付金活動を続けています。盲導犬を育てるには多くの時間と費用が必要になります。1頭でも多くの盲導犬が育つように、社員ひとり一人の思いが、お役に立つことを願っています。



SBSグループ

富士山の世界遺産登録に協力

「富士山を世界遺産にする国民会議」に協賛しました

SBSグループは、日本が世界に誇る富士山を世界遺産に登録する活動を支援するため、「富士山を世界遺産にする国民会議」の協賛サポーターとして参加しました。日本では古くから、信仰、文学、絵画など長い歴史を通じて人々の生活に密着し、日本のほぼ中央に優美な姿でそびえ、世界的な遺産としてふさわしい存在であると考えます。この富士山を、世界で共有できる遺産として、国際的に協力しあって保護・保存し、未来の世界に引き継いでいくことを願い、協賛を続けてまいりました。



SBSグループ

エコキャップの回収運動

子どもたちへのワクチン提供とCO₂排出抑制のために

SBSグループでは、2009年秋からエコキャップの回収運動を続けています。一人の社員の提案から賛同者が集まり、今ではグループ全体で回収運動が行われています。その結果、累計で



90万個を回収。約1,000人の子どもたちにワクチンを贈ることができ、CO₂の排出も約6t抑制することができました。今後とも、エコキャップの回収運動を続けてまいります。

エコキャップ回収情報(2013年7月末日現在)

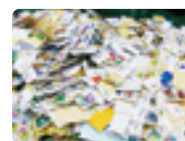
| 回収個数 | ワクチンの提供 | CO ₂ の排出削減 |
|----------|---------|-----------------------|
| 903,506個 | 1,050人分 | 6,618kg |

SBSスタッフ

動物愛護活動に協力

SBSグループ全体に支援の和が広がりました

SBSスタッフはCSR活動の一環として、使用済み切手を動物愛護団体である公益社団法人日本動物福祉協会(Jaws)にお渡ししました。この活動は昨年からのSBSスタッフにより開始され、賛同したグループ各社からも使用済み切手が集められました。日頃捨てていた使用済み切手を、動物愛護活動に役立てるための活動を、今後とも続けてまいります。



グループの賛同者から集められた使用済みの切手

SBSフレイトサービス

SBSフレック

他

近隣清掃

地域の皆様への感謝を込めて清掃活動を行います

事業拠点の地域の皆様には、車両の通行等でご負担をおかけすることもあります。私たちは周辺環境の維持と、近隣の皆様への感謝を込めて、定期的に清掃活動を行っております。木の植え込みなどは廃棄物が堆積しやすく、清掃活動を通じて、清潔感のある環境を維持することができます。通行中の皆様から感謝の声をいただくこともあり、近隣の方々との良き関係を築いてまいりたいと思います。



SBSフレイトサービス

SBSフレック

SBSグループ

SBSグループの教育研修

有為な人材の育成を目指します

SBSグループは、国際物流の強化、3PL事業の拡大、積極的なCSR経営の推進とコンプライアンスの徹底を目指しております。これらを実現していくため、有為な人材の育成が強く求められており、今年度は

- ❶ 社員の行動改革を主体としたプログラム
- ❷ CSR等、コンプライアンス教育の充実
- ❸ グローバル人材の育成

を基本方針として取り組みます。

また、教育研修で目標とする人材像として

- ❶ 自らビジョンを掲げて行動できる「実行力」のある人材
- ❷ 高度な専門性をもった「知恵力」のある人材
- ❸ 新しいものを生み出していける「開発力」のある人材
- ❹ 常に「お客様志向の目線」をもった人材
- ❺ 公正・無私・法令遵守の「強い倫理観」をもった人材

を目指しています。

教育研修体系図

| 階層別研修 【必修】 | テーマ別研修【選抜】 | | 【新設】 部門別研修 【必修・選抜】 | 自己啓発助成 |
|---|---|--|--|--------------------------------|
| | 課題・専門研修 | 国際要員 育成 | | |
| 経営層（部長以上） 部長研修 ・社外セミナー派遣 ・講演会 | | | SBSグループ役員 コンプライアンス セミナー(2回) | 通信研修・ラーニング・ビジネス・キャリア検定等 |
| 管理職（部長クラス） 管理職 アドバンス研修 (1.5日) 管理職基礎研修 (2日) | メンタルヘルス研修(半日)2回 | 営業力強化研修(基礎知識 P・S・A・D・S)(各1日) ①コーチング(1日) ②アサーション(半日) | 推進委員会向けコンプライアンス研修(2回) 個人情報管理セミナー 下話法関係セミナー | 安全運転研修会(4回) / エコ安全ドライブレッスン(4回) |
| 監督職（係長クラス） 監督職 アドバンス研修 (1.5日) 監督職基礎研修 (2日) | 第1日目 投資時コンプライアンス情報セキュリティ・C・S・R環境の研修 第2日目 一般研修(立役者)責任マネジメントリターン | 物流センター長研修(2日) ビジネススキル研修 国際マナー講座(1日) | | |
| 一般職～主任クラス 中堅社員研修 (2日) 社会人3年目研修 (2日) 新入社員フォローアップ研修(1日) 新入社員研修(1週間) | 途入社社フォロ アップ研修(2日) | 物流基礎研修(半日) | | |
| 現業職（構内職・運転職） 現場リーダー強化研修(1日) [3回] | | | | |

SBSグループ

CSR Newsを毎月発行中

全従業員に最新の情報を伝えます

SBSグループのCSR経営は、ひとり一人の従業員がCSRを理解し、日々実践することを目指しています。2011年2月、環境への意識を高めるためにEco Newsを発行。翌2012年からは範囲を拡大しCSR Newsとして毎月発行を続けています。物流現場やオフィスで直面するコンプライアンス、安全や環境への対策、社会との調和など、身の回りにある実感の持てる話題を、わかりやすく、ビジュアルに、A4サイズ1枚で毎月伝えています。



SBSグループ

CSR報告書2012を読む会

CSRへの理解を一層高めて、CSR経営の定着を目指します

SBSグループでは、最新のCSR報告書をもとに、「CSR報告書を読む会」を開催しています。当該会では、CSRを理解するための基礎講習に続き、当グループの環境データや今後の課題、CSRに係わる社会動向や先進各社の取り組みなどを紹介いたします。また、具体的な事例での説明を基本に、1回20名以内の少人数制にするなど、参加者が十分に理解できるように工夫しています。CSR報告書を作成したままでは終わらせずに、CSRをひとり一人が理解し、実践することを目指しています。



SBSグループの概要

SBSホールディングス株式会社

代表者… 代表取締役 鎌田正彦

所在地… 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー

TEL… 03-3829-2222(代表)

FAX… 03-3829-2822

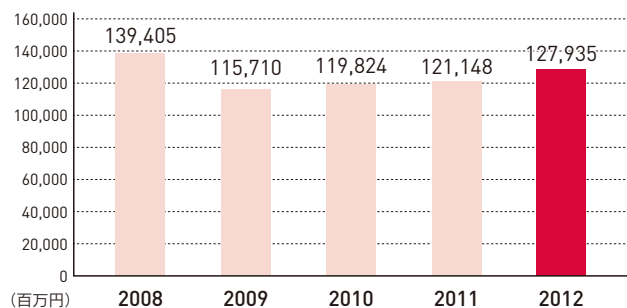
設立… 1987年12月16日

資本金… 38億3,393万円(2012年12月末現在)

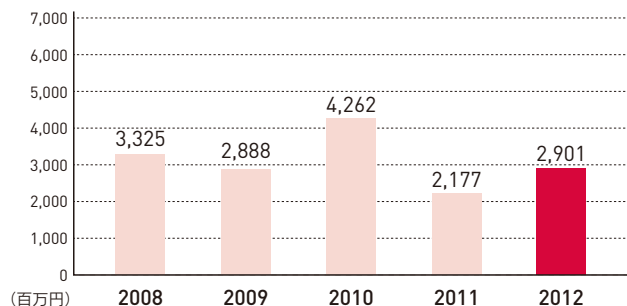
売上高… 1,279億円(2012年12月期 連結)

財務ハイライト(連結)

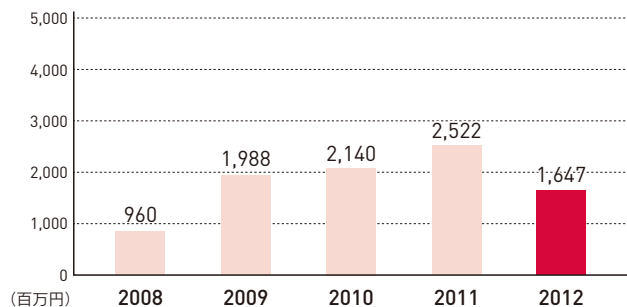
連結売上高



連結営業利益



連結当期純利益

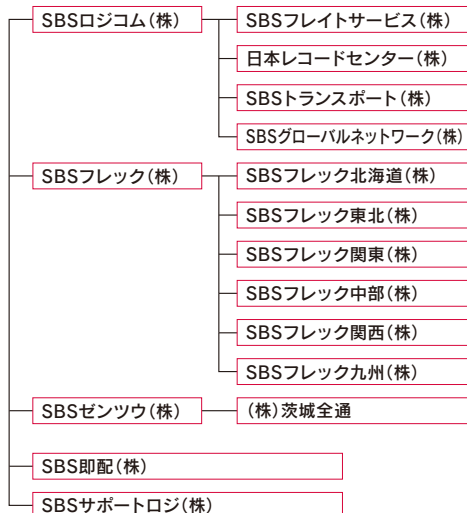


SBSグループ企業一覧

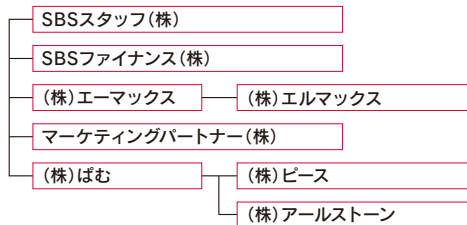
SBSホールディングス(株)

国内グループ

ロジスティクス

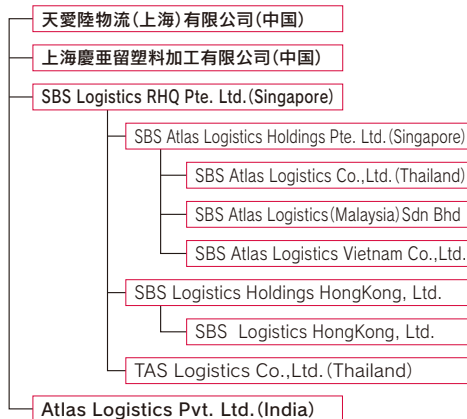


サポート



海外グループ

ロジスティクス



※ SPCを除く(2013年6月末現在)




[問い合わせ先]

SBSホールディングス株式会社

IR・広報部 CSR・環境対策推進室

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3

 03-3829-2240 /  03-3829-2822

 <http://www.sbs-group.co.jp/>

